

平成30年10月26日（金）1校時 上運動場（ふれあいの森） 指導者 井上 旭

1 単元名 YMCA（柔らかく もっと巧みに 力強く 遊ぶ）（体づくり運動：体の動きを高める運動）

2 単元の目標

友達の気付きや考え、取組のよさを認め合い、自己の体力やめあてに応じて運動を工夫しながら、多様な体の動かし方で運動に取り組むことができる。

3 単元の構想

【児童の実態】

本学級は、男子20名、女子16名、計36名である。5年生では、フォークダンスやリレー、水泳運動の学習に取り組んできた。グループ学習やペア学習を通して、友達と一緒に課題に向かって試行錯誤する学習を経験してきた。運動が好きな児童が多く、活発に体を動かしながら学習に取り組むことができている。体を動かすことは好きだと感じている児童がほとんどであるが、友達のことに目が向きにくく、自分がやりたいという思いが優先してしまう児童も多い。友達とかかわって運動し、互いに高め合いながら運動を楽しむことができるような支援をしていきたい。

昨年度までの体づくりの学習では、運動しながら、自分の体の動かし方に目を向けて、多様な動きを身に付けることができている。本単元では、子どもたちが意図をもって運動の仕方を工夫し、体の動きを高めることができるようにしたい。

【運動のおもしろさの捉え方】

課題や目的に応じた運動に対して、様々な体の動かし方を駆使しながら取り組むことがおもしろさであると捉える。本単元では、夢中で遊びに取り組む中で、自分の課題を見つけ、課題に合った運動に取り組み、体の動きが高まったことを感じるおもしろさを味わわせたい。



「課題に迫るために、めあてをもち、夢中になって学び続ける子どもの育成」を目指して

挑戦課題：森の中で体力を高めることができるかどうか

【問いと学びの姿】

問い ○○で遊ぶと、どんな力が高まるかな？

→ 遊具を使って行い方を工夫し、どんな体力が高まるのかを考えながら遊ぶ姿。

問い 体力を高めるには、どのように遊べばよいかな？

→ 森の中の自然を使って、めあてに応じて行い方を工夫して遊んでいる姿。

【単元構成の工夫】

5年生になり、最初の体の動きを高める運動の単元である。そこで、運動と体力要素（柔らかさ、巧みさ、力強さ、持続）を結びつけて考えることができるような運動の見方を育てるために、まず「○○で遊ぶと、どんな力が高まるかな？」という課題に取り組む。遊具を使って遊ぶ中で気付いたことを知識として獲得し、その体力要素を意識して運動することで、意図的に体の動きを高める活動ができるようにしていきたい。

単元の後半では、「体力を高めるには、どのように遊べばよいかな？」という課題に取り組む。子どもたちが森の中で、体の動きの高まりを意識しながら遊ぶようにする。自然をそのまま使って遊んだり、教師が意図的に用意したものを使って遊んだりしながら、めあてに応じて行い方を工夫することで、体の動きの高まりを感じることができるようにしたい。

単元を通して、運動（遊び）と体力要素を結びつけて取り組むことができ、新たな運動の見方ができるようになる授業を設定した。

4 運動のおもしろさを広げるための支援の工夫

○ 「自己」とのかかわりから

- ・ 運動の工夫の仕方を助言したり共有したりし、体力要素を意識するような声掛けをし続けることで、体の動きをさらに高めることができるようにする。
- ・ 体の動かし方を体力の高まりの根拠とすることで、自分の体と向き合うことができるようにする。

○ 「仲間」とのかかわりから

- ・ グループで遊びに取り組み、互いの意見や考えを取り入れることで、自分だけでは考えられないような行い方ができるようにする。
- ・ 行い方の工夫を紹介することで、より多様に遊ぶことができるようにする。
- ・ 毎時間グループの友達を変えて運動に取り組むことで、より多様な行い方や体の動かし方に気付くことができるようにする。

○ 「もの」とのかかわりから

- ・ 森の中で学習することで、「おもしろい」「やってみたい」という思いをもち、意欲的に取り組むことができるようにする。
- ・ 森の中に、教師が意図的にものを設置することで、子どもたちの遊びの幅を広げ、より多様な運動を経験することができるようにする。
- ・ タブレット型端末とプリンタをいつでも使えるようにすることで、場や行い方の工夫を視覚的に共有することができるようにする。

5 評価規準

	知識及び運動	思考力、判断力、表現力等	学びに向かう力、人間性等
目 標	めあてに合った運動の行い方を理解し、体の動きを高めるための運動をすることができる。	自分のめあてに応じて、運動の行い方を工夫するとともに、自分や友達の考えたことを他者に伝えている。	友達の考えや取組のよさを認めようとし、場や用具の安全に気を配りながら積極的に運動に取り組もうとする。
評価規準	ア 取り組む運動や行い方によって、高まる体の動きに違いがあることを理解することができる。 イ 自分のめあてに合った行い方を選び、体の動きを高める運動を行うことができる。	カ 自分のめあてに合うように、運動の行い方や場を工夫している。 キ めあてに合った行い方や課題を解決するための体の動かし方を他者に伝えている。	サ 安全に気を配りながら、友達の意見や取組のよさを認め、運動に取り組もうとしている。